

(表4)

後天性難聴と皮質聾の比較

聴覚障害の等級	1 語音	2 音楽	3 環境音
2級 (100dB) 以上	× (×)	× (×)	× (×)
3級 (90dB) 以上	× (×)	× (×)	× (△)
4級 (80dB) 以上 (語音明瞭度 50%以下)	△ (○)	△ (○)	△ (○)
6級 (70dB) 以上	○ (○)	○ (○)	○ (○)
皮質聾 (聴覚失認)	×	×	×

() 内は補聴器装用下の知覚

○可能 △一部可能 ×不可能

Ⅲ

健忘症者の求める社会福祉的援助内容に関する研究

健忘症者の求める社会福祉的援助内容に関する研究

分担研究者

加藤元一郎(東京歯科大学市川総合病院精神神経科)

研究要旨

現在身体障害者福祉法の適用外にある健忘症候群30例について、日常生活上の健忘症候、問題行動、およびハンディキャップを調査し、これらのケースおよびその家族が求める社会福祉的援助内容に関して調査を行った。健忘症候群例において日常生活上の健忘症候や仕事ないしは復職ができないという社会生活上の問題が多く見られること、また、服薬、買い物、お金の計算などの生活障害が高率に出現していることが明らかにされた。また、現在のハンディキャップに関しては、職場復帰不能などの就労に関する問題と経済的な問題が多く出現しており、病院、リハ専門機関、職業リハ機関、福祉機関の利用が行われているが、これらの対策の効果は充分ではなくまたそれらへの満足度も低いと思われた。今後に望まれる援助や対策および福祉制度では、職業訓練や就職相談、職場での配慮、ジョブコーチなどの就労関連の対策と通院医療費軽減という経済的な援助を重要視する回答が多く、また、高次脳機能障害者の方のために専用の手帳、障害基礎年金、医療費公費負担を重要とする回答が多かった。これらの結果より、今後健忘症候群を呈するケースに対して就労関連の対策と経済的な援助を中心とした福祉制度が充実されることが必要であると考えられた。

A.研究目的

脳血管障害、代謝障害、脳炎などの後遺症として、臨床的にももの忘れをその主症状とする健忘症候群が生じる。これらのケースでは、その知的機能が比較的良好であるにもかかわらず、健忘を中心とした多くの日常生活上の困難が生じている。また、社会活動を営む上でのハンディキャップも著しい。しかし、これらのケースは、身体障害者福祉法および精神障害者福祉法の適用外にある。本研究では、健忘

症候群30例について、日常生活上の健忘症候、問題行動、およびハンディキャップを調査し、これらのケースおよびその家族が求める社会福祉的援助内容に関して調査を行った。

B.研究方法

【対象】

対象は、アルコールコルサコフ症候群(Korsakoff Syndrome, KS)10例、前脳基底部分健忘(前交通動脈症候群, ACoA syndrome)8例、脳出血後遺

症5例、ヘルペス脳炎後遺症3例、CO中毒後遺症2例、サリン中毒後遺症1例、頭部外傷後健忘例1例から成る健忘症候群30例である。脳腫瘍術後、変性疾患、てんかんに属するケースは除外した。また、FIQ (WAIS-R) の値が80以下の知的機能の低下を示す例、および運動障害、視力障害、聴覚障害を示すケースも除外された。すなわち、これらの対象では、その神経心理学的障害は、ほぼ健忘に限局している。コルサコフ症候群はアルコール依存症に伴う代謝障害の結果生じたものであり、他の健忘例と異なり高率に前頭葉機能障害を有することが示唆されているため、全例をコルサコフ症候群とその他の健忘例に分類して分析した。

対象の年齢、性、教育歴、発症後経過年数を表1に示す。対象は、40-50歳台の中年期の男性が中心で、発病後2-3年が経過している例が多い。また、全例の現在の職業は、無職25人、会社員2人、自営業1人、技術者1人、専業主婦1人であり、発症前の職業は、会社員17人、自営業3人、技術者3人、公務員1人、自由業3人、専業主婦1人、学生2人である。さらに全例が、発症時には病院で治療を開始されていた。また、健忘症候群例には、病識の欠如だけでなく、現実見当識に問題を有する者が多い。従って、健忘や日常生活上の問題および援助や対策と福祉制度に関する質問は、ケースに代わって家族に回答を求めた。回答を寄せた家族は、配偶者21

人、父2人、母6人である。

【方法】

上記の対象に対して、以下の検査および質問紙を用い、その認知障害の程度、日常生活上の健忘症候の程度、日常生活上の問題の評価、現在のハンディキャップ、望まれる援助や対策と福祉制度について調査した。

1) 神経心理学的検査

WAIS-R (FIQ) と WMS-R (MQ : memory quotient) を施行し、知的機能のレベルと前向き健忘の程度を評価した。

2) 日常生活上の健忘症候の評価

評価の方法としては、以下の評価表を用いた。健忘例自身による記憶障害の評価には妥当性および信頼性の問題が指摘されているため、以下の1-3.について、今回は全例家族による評価を用いた。1.と2.では、実際の日常生活記憶の障害のレベルが、3.の記憶情動尺度では、健忘症候に伴う不安抑うつ症状のレベルが想定される。また、1.ではより高得点が、2.と3.では低得点が、健忘症候が重篤であることを示す。

1. 日常生活上の記憶障害評価 - 1 (Sunderland et al, 1984)

2. 日常生活上の記憶障害評価 - 2 (鐘築, 1997, 下仲, 1993)

3. 日常生活上の記憶情動尺度 (鐘築, 1997, 下仲, 1993)

また、3)、4)、5)に関する質問紙も家族により回答された。

3) 日常生活上の問題に関する質問紙

4) 現在のハンディキャップに関する質

問紙

5) 望まれる援助や対策と福祉制度に関する質問紙

C. 研究結果

各項目ごとに結果を示す。

1) 神経心理学的検査

FIQとMQの成績を表1に示す。FIQで示される知的機能が優秀であるにもかかわらず、MQの低下が顕著であるという健忘症候群の特徴が示されている。

2) 日常生活上の健忘症候の評価

表2に、3つのスケールの結果を示した。いずれも、対照に比較して健忘症候群例において日常生活上の健忘症候が重篤であることを示している。日常生活上の記憶障害評価 - 1と-2では、コルサコフ群の日常生活記憶の障害のレベルが、コルサコフ症候群以外の健忘例に比較して重症であることがわかる。しかし、記憶情動尺度の得点をみると、コルサコフ症候群と対照の成績はほぼ同様であり、コルサコフ症候群以外の健忘のみで得点の低下が示されている。記憶情動尺度は、健忘によって引き起こされる不安抑うつ感の程度を評価する尺度である。従って、コルサコフ症候群では健忘に伴う病識欠如や感情の鈍麻により、記憶障害が高度であるにもかかわらず不安抑うつ感の程度が低く、一方、コルサコフ症候群以外の健忘(特に、側頭葉性健忘例)では、健忘に病識が伴うことが多く、このため不安抑うつ感が高いと考えられる。

3) 日常生活上の問題に関する質問紙

表3-5に結果を示した。まず基本的な日常行動では、健忘症候群例において掃除や洗濯ができにくいことがわかる。また、コルサコフ症候群では、不眠の出現が特徴的である。さらに、服薬、買い物、お金の計算、読書、自動車の運転、電車、バス、タクシーの利用などの障害が高率に出現している。仕事ができないという社会生活上の重大な問題が最も多く見られる。これ以外にも、他者との会話という対人関係の問題、約束遵守不能や行動計画能力の低下などの展望記憶や遂行機能などに関連した障害が見られる。

4) 現在のハンディキャップに関する質問紙

結果を表6-10に示す。まず、現在のハンディキャップに関しては、職場復帰不能をはじめとした職場における障害と経済的な問題が多く出現しており、また将来の不安の中心であることがわかる。さらに、人付き合い、趣味、娯楽活動などの対人関係やいわゆる心理的活動の問題が効率に存在していることがわかる。ハンディキャップへの対策としては、病院、リハ専門機関、職業リハ機関、福祉機関の利用が、ケースごとに様々に行われているが、これらの現状の対策の効果は充分ではなく、またそれらへの満足度も低い。

5) 望まれる援助や対策と福祉制度に関する質問紙

結果を、表11-13に示す。今後に望まれる援助や対策では、職業訓練

や就職相談、職場での配慮、ジョブコーチなどの就労関連の対策と通院医療費軽減という経済的な援助を重要視する回答が多く、一方、病院での治療やカウンセリングにそれほど多くの期待がよせられていなかった。現在の手帳の所持については、身体障害者手帳を持っているケースは無く、精神障害者手帳を持っている例が1例のみ存在した(これは、健忘に不安抑うつおよび妄想状態を伴うケースである)。将来、健忘症の方のために専用の手帳を作ることには、22/30例(73.3%)が賛成と答えた。重要視されるべき福祉制度としては、まず障害基礎年金と医療費公費負担を重要とする回答が多かった。公共機関の割引や税制上の優遇については、どちらかというとも重要とする見解が多かった。また、公的介護保険については、回答が分散し、一定の傾向を認めなかった。

D.考察

アルコールコルサコフ症候群10例とその他の脳器質性健忘例20例からなる健忘症候群30例について、日常生活上の健忘症候、問題行動、およびハンディキャップを調査し、さらにこれらのケースおよびその家族が求める社会福祉的援助内容に関して調査を行った。

健忘症候群例において日常生活上の健忘症候やそれに伴う不安抑うつ症状が重篤であること、仕事ないしは復職ができないという社会生活上の問

題が最も多く見られること、また、服薬、買い物、お金の計算、読書、自動車の運転、電車、バス、タクシーの利用などの障害が高率に出現していることが明らかにされた。また、現在のハンディキャップに関しては、職場復帰不能などの就労に関する問題と経済的な問題が多く出現しており、病院、リハ専門機関、職業リハ機関、福祉機関の利用が行われているが、これらの対策の効果は充分ではなくまたそれらへの満足度も低いと思われた。今後に望まれる援助や対策および福祉制度では、職業訓練や就職相談、職場での配慮、ジョブコーチなどの就労関連の対策と通院医療費軽減という経済的な援助を重要視する回答が多く、また、高次脳機能障害者の方のために専用の手帳、障害基礎年金、医療費公費負担を重要とする回答が多かった。これらの結果より、今後健忘症候群を呈するケースに対して就労関連の対策と経済的な援助を中心とした福祉制度が充実されることが必要であると考えられた。

文献

- 1)Sunderlund A et al:Memory failures in everyday life following severe head injury. Journal of Clinical Neuropsychology 6:127-142,1984
- 2)鐘築裕子ら:健常成人の記憶の自己評価に対する強迫性の関与。失語症研究17:295-302、1997

表1 対象の特徴

	KS	KS以外の健忘例	全例
N	10	20	30
年齢	51.6 (7.8)	45.3 (8.9)	47.2 (6.2)
性 (男性/女性)	10 / 0	18 / 2	28 / 2
教育歴	13.2 (2.3)	14.3 (1.8)	13.9 (2.0)
発症後期間 (年)	3.5 (1.5)	1.8 (1.8)	2.5 (1.6)
WAIS-R : FIQ	94.5 (9.5)	101.5 (11.2)	99.2 (10.3)
WMS-R : MO	65.0 (7.2)	71.3 (8.9)	69.0 (8.1)

表2 日常生活上の健忘の評価

	KS	KS以外の健忘	全例	control
N	10	20	30	
記憶障害評価一1の得点	183.6 (12.3)	130.3 (10.4)	148 (11.2)	59 -116 #
記憶障害評価一2の得点	16.4 (4.6)	22.3 (6.4)	20.3 (5.1)	32.1 (4.8) ##
記憶情動尺度得点	31.7 (7.7)	13.5 (3.8)	25.6 (6.3)	30.8 (6.5) ##

control # : Sunderland(1984)による自覚的評価得点の正常域

control ## : 脳ドック受診者 (N=90, mean age=60.1(9.5)) の自覚的評価の平均値 (鐘築,1997)

表3 日常生活上の問題の出現率一1

	KS	KS以外の健忘	全例
N	10	20	30
1 問題はない	0 %	0 %	0 %
2 食事が食べられない	30 %	5 %	13 %
3 眠れない	60 %	10 %	27 %
4 セックスができない	40 %	5 %	17 %
5 食事が作れない	-	50 %	50 %
6 掃除ができない	70 %	55 %	60 %
7 洗濯ができない	60 %	60 %	60 %
8 洗面ができない	20 %	0 %	7 %
9 風呂に入れない	20 %	0 %	7 %

表4 日常生活上の問題の出現率—2

	KS	KS以外の健忘	全例
N	10	20	30
10 電話ができない	50 %	20 %	23 %
11 薬を自分で飲めない	80 %	45 %	57 %
12 外出散歩ができない	30 %	30 %	45 %
13 買い物ができない	90 %	50 %	65 %
14 テレビがみられない	10 %	5 %	7 %
15 ラジオが聴けない	0 %	0 %	0 %
16 お金の計算ができない	90 %	50 %	65 %
17 軽作業ができない	30 %	30 %	45 %
18 本を読めない	70 %	55 %	60 %
19 文章を書けない	10 %	5 %	7 %

表5 日常生活上の問題の出現率—3

	KS	KS以外の健忘	全例
N	10	20	30
20 自動車にのれない	100 %	70 %	80 %
21 自転車にのれない	0 %	10 %	7 %
22 電車バスに乗れない	80 %	30 %	47 %
23 タクシーに乗れない	60 %	30 %	40 %
24 他人と会話できない	80 %	35 %	50 %
25 家族と会話できない	20 %	5 %	10 %
26 仕事ができない	100 %	75 %	83 %
27 約束が守れない	100 %	70 %	80 %
28 予定をたてられない	90 %	60 %	70 %

表6 現在の不利益（ハンディキャップ）の出現率

	KS	KS以外の健忘	全例
N	10	20	30
1 職業に復帰できない	100 %	75 %	83 %
2 職場で不適切な扱いを受ける	100 %	80 %	89 %
3 人とのつきあいがうまくできない	90 %	60 %	70 %
4 趣味が続けられない	70 %	50 %	57 %
5 他人に誤解される	50 %	55 %	53 %
6 いじめられる	30 %	20 %	23 %
7 収入が減った	100 %	90 %	93 %
8 医療費がかさむ	80 %	80 %	80 %

表7 今後考えられる不利益の出現率

	KS	KS以外の健忘	全例
N	10	20	30
1 職業の問題	100 %	85 %	90 %
2 家庭生活の問題	100 %	60 %	73 %
3 経済的な問題	100 %	95 %	97 %
4 趣味や娯楽活動の問題	80 %	90 %	86 %
5 心理的な（心の）問題	100 %	85 %	90 %

表8 不利益への対策

	KS	KS以外の健忘	全例
N	10	20	30
1 一般病院での治療訓練	50 %	60 %	57 %
2 精神病院での治療訓練	100 %	10 %	40 %
3 リハ専門機関での治療と訓練	40 %	60 %	53 %
4 職業リハ機関での相談と訓練	30 %	70 %	57 %
5 福祉機関での相談や受給	100 %	60 %	73 %

表9 対策の効果

N	30
1 とても効果がある	20%
2 どちらかというの効果がある	27%
3 どちらかという効果がない	33%
4 全く効果がない	17%
5 どちらでもない	4%

表10 対策への満足

N	30
1 とても満足している	0%
2 どちらかという満足している	17%
3 どちらかという満足していない	67%
4 全く満足していない	17%
5 どちらでもない	0%

表1.1 望ましい援助や対策-1 (N=30)

	一般病院 での治療や訓練	精神病院 での治療や訓練
1 とても重要である	20 %	17 %
2 どちらかといえば重要である	27 %	10 %
3 あまり重要ではない	20 %	7 %
4 重要でない	0 %	0 %
5 どちらでもない	33 %	67 %

表1.2 望ましい援助や対策-2 (N=30)

	職業訓練 就職相談	職場での配慮	ジョブコーチ
1 とても重要である	67 %	70 %	60 %
2 どちらかといえば重要である	17 %	30 %	33 %
3 あまり重要ではない	0 %	0 %	0 %
4 重要でない	0 %	0 %	0 %
5 どちらでもない	17 %	0 %	7 %

表1.3 望ましい援助や対策-3 (N=30)

	カウンセリング 本人	カウンセリング 家族	通院医療費軽減 (公費負担)
1 とても重要である	33 %	30 %	80 %
2 どちらかといえば重要である	57 %	53 %	20 %
3 あまり重要ではない	0 %	0 %	0 %
4 重要でない	0 %	0 %	0 %
5 どちらでもない	10 %	17 %	0 %

表1.4 健忘症のために重視されるべき福祉制度一1 (N=30)

	障害基礎年金	医療費公的負担
1 重視されるべき	73 %	76 %
2 どちらかといえば重視されるべき	20 %	20 %
3 どちらかといえば重視されるべきでない	0 %	3 %
4 重視されるべきでない	0 %	0 %
5 どちらでもない	7 %	0 %

表1.5 健忘症のために重視されるべき福祉制度一2 (N=30)

	公共機関施設 の割引	税制上 優遇措置	公的介護保険
1 重視されるべき	17 %	13 %	13 %
2 どちらかといえば重視されるべき	60 %	57 %	20 %
3 どちらかといえば重視されるべきでない	13 %	17 %	20 %
4 重視されるべきでない	0 %	0 %	13 %
5 どちらでもない	10 %	13 %	33 %

日常生活上の記憶障害評価用紙 - 1

記入者 お名前 _____ 年齢 _____ 歳 性別 男・女 続柄 _____
患者 お名前 _____ 年齢 _____ 歳 性別 男・女

以下の質問項目は、誰にでもよくあるような忘れやすい事柄について尋ねたものです。毎日のように起こるものもありますし、めったに起こらないものもあります。次の27項目について、1から9のうち当てはまる数字を（ ）に書いてください。

半年に1回もない場合	1
半年に1回くらいある	2
半年に数回ある	3
月に1回くらいある	4
月に2、3回ある	5
週に1回くらいある	6
週に数回ある	7
毎日1回くらいある	8
毎日2回以上ある	9

- 1 品物をしまっておいた場所を忘れて、自宅の周辺で物をなくしたりする。 ()
- 2 以前に何度も来たことのある場所がそのようには思えない。 ()
- 3 テレビドラマの筋を追っていけない。 ()
- 4 毎日習慣でやっていたこと（例えば物を置く場所や行動を開始する時間など）を変更したことを忘れて、今までどおりにやってしまう。 ()
- 5 ドアに錠をかけたかどうかというように、ある行動を実際にやったかどうか確認し直さなければならない。 ()
- 6 ある事柄がいつ起こったのか思い出せない。例えばある事件が昨日起こったのか先週起こったのか忘れてしまう。 ()
- 7 ある物を持っていくのを完全に忘れて、置き忘れて取りに戻らなければならないかかったりする。 ()

半年に1回もない場合	1
半年に1回くらいある	2
半年に数回ある	3
月に1回くらいある	4
月に2、3回ある	5
週に1回くらいある	6
週に数回ある	7
毎日1回くらいある	8
毎日2回以上ある	9

- 8 前の日や2、3日前に言われたことを忘れてしまい、指摘されなければ思い出さない。 ()
- 9 すでに読んでしまったことを忘れて、本や新聞記事や雑誌を読み始める。 ()
- 10 つまらないことや関係のないことをとりとめもなく話し続ける。 ()
- 11 頻繁に会っている親類や友人に会っても名前が思い出せない。 ()
- 12 新しい技能がなかなか覚えられない。例えば1、2度練習しただけでは新たにゲームを覚えたり装置を動かしたりすることが困難である。 ()
- 13 言葉がのどまで出かかっているのに出てこない。どういう言葉なのかわかっていないのに全く思い出せない。 ()
- 14 やると言ったことや計画したことをすっかり忘れてしまう。 ()
- 15 前日に自分がやったことや経験した重要なことを詳しく覚えていない。 ()
- 16 例えば「今私は何の話をしていましたか」と聞くように、誰かと話している最中に、自分が直前に話した内容を忘れる。 ()
- 17 新聞や雑誌を読んでもその大筋がつかめず、何が書いてあるのかさっぱりわからない。 ()

半年に1回もない場合	1
半年に1回くらいある	2
半年に数回ある	3
月に1回くらいある	4
月に2、3回ある	5
週に1回くらいある	6
週に数回ある	7
毎日1回くらいある	8
毎日2回以上ある	9

- 18 大切なことを人に伝えるのを忘れる。例えば伝言を伝えたり忘れないように注意したりすることを忘れる。 ()
- 19 自分の誕生日や住所のように、自分にとって肝心なことを忘れる。 ()
- 20 言われたことの細かい点を混同し、混乱する。 ()
- 21 以前話したことのある話や冗談を気づかずに繰り返す。 ()
- 22 家庭や職場で規則正しくやっていたことの詳細を忘れる。例えばそのやり方の細かな点や、いつそれをやるのか忘れる。 ()
- 23 テレビや写真で見たことのある有名人の顔が、初めて見る顔に思える。 ()
- 24 品物をしまっておいた場所を忘れて、見当違いの場所を探しまわる。 ()
- 25 (a)旅行や散歩で何回も行ったことのある場所や建物の中で、迷ったり見当違いの方角に行ったりしてしまう。 ()
 (b)旅行や散歩で1、2回しか行ったことのない場所や建物の中で迷ったり見当違いの方角に行ったりしてしまう。 ()
- 26 日常やっている行動を知らないうちに繰り返している。例えば急須に倍の分量のお茶を入れたり、髪をとかし終えてからすぐにもう一度とかし始めようとしたりする。 ()
- 27 言ったばかりのことをもう一度繰り返したり、同じ質問を繰り返したりする。 ()

日常生活上の記憶障害評価用紙 - 2

記入者 お名前 _____ 年齢 _____ 歳 性別 男・女 続柄 _____
患者 お名前 _____ 年齢 _____ 歳 性別 男・女

最近の状態について、あてはまる程度に○をつけて下さい。

- 1) 探し物をしていて、何を捜していたのかを忘れる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 2) 約束を忘れる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 3) 親戚や友人の名前が思い出せない
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 4) 言おうと思っていたことを、ふとした拍子に忘れる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 5) 誕生日や記念日などの大切な日を忘れる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 6) 支払いや約束の期限を忘れる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 7) のどまで出かかっているのにでてこない
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 8) いつも使うもの（めがねなど）をどこに置いたか忘れる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 9) 外出先でよくものをなくす
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 10) 買う物がいくつもあると、何か買い忘れる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない

日常生活上の記憶情動尺度

記入者 お名前 _____ 年齢 _____ 歳 性別 男・女 続柄 _____
患者 お名前 _____ 年齢 _____ 歳 性別 男・女

最近の状態について、あてはまる程度に○をつけて下さい。

- 1) 言いたい言葉や名前が出てこなくて、いらいらする
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 2) 自分の記憶力の衰えに気づいて驚く
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 3) 重要なことを忘れはしないかと不安になる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 4) 自分の物覚えの悪さを情けなく感じる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 5) 物忘れをすると、ぼけるのではないかと恐れを感じる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 6) 簡単なことが覚えられずに、悲しくなる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 7) 話の最中に、言葉がでてこなくてあせる
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 8) 鍵をかけ忘れていないかと、心配になる。
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 9) 人と話しているときに度忘れして、恥ずかしい思いをする
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない
- 10) 物忘れが原因で気分が落ち込む
1 良くある 2 ときどきある 3 たまにある 4 ない

健忘症者の求める社会福祉的援助内容に関する調査用紙

あてはまるものに○を付けて下さい。

- 1 記入者 1 本人 2 家族

家族の方は、あなたと患者さんの関係は？

- 1 配偶者 2 父 3 母
4 その他 ()

(以下は患者さん本人に関しておこたえ下さい)

- 2 性別 1 男 2 女

- 3 年齢 _____ 歳

- 4 現在の職業 1 会社員 2 自営業 3 技術者 4 公務員
5 自由業 5 専業主婦 6 パート (週 時間)
7 無職 8 その他 ()

- 5 発症前の職業 1 会社員 2 自営業 3 技術者 4 公務員
5 自由業 5 専業主婦 6 パート (週 時間)
7 無職 8 その他 ()

- 6 同居者は？ 1 配偶者 2 父 3 母 4 子ども (人)
5 孫 (人) 6 その他 (人)

- 7 学歴 1 中学卒 2 高校卒 3 大学卒
4 その他 ()

次に物忘れについてMお聞きします。

物忘れについて、日常生活のなかでどのような障害がありますか？

以下の8、9、10をチェックしてください。

- 8 日常生活上の記憶障害評価用紙 - 1
9 日常生活上の記憶障害評価用紙 - 2
10 日常生活上の記憶情動尺度評価用紙 - 3

- 11 それらの障害がおこったのはいつからですか？

昭和、平成_____年_____月

- 12 どこで治療を受けましたか？

- 1 受けない 2 病院 3 その他 ()

13 それらの障害のため、現在どのような日常生活上の問題がありますか？
あてはまるものにすべて○を付けて下さい。

- 1 問題はない
- 2 食事が食べられない
- 3 眠れない
- 4 セックスができない
- 5 食事が作れない
- 6 掃除ができない
- 7 洗濯ができない
- 8 洗面ができない
- 9 風呂に入れない
- 10 電話ができない
- 11 薬を自分で飲めない
- 12 外出や散歩ができない
- 13 買い物ができない
- 14 テレビがみられない
- 15 ラジオが聴けない
- 16 お金の計算ができない
- 17 家の外での軽作業ができない
- 18 本を読めない
- 19 文章を書けない
- 20 自動車にのれない
- 21 自転車にのれない
- 22 電車やバスに乗れない
- 23 タクシーに乗れない
- 24 他人と会話できない
- 25 家族と会話できない
- 26 仕事ができない
- 27 約束が守れない
- 28 明日の予定をたてられない

次に、それらの困難のための現在どのような不利益についてお聞きします。

14 それらの困難のため、現在どのような不利益（ハンディキャップ）をうけていますか？

あてはまるものにすべて○を付けて下さい。

- 1 職業に復帰できない
- 2 職場で不適切な扱いを受ける
- 3 人とのつきあいがうまくできない
- 4 趣味が続けられない
- 5 他人に誤解される
- 6 いじめられる
- 7 収入が減った
- 8 医療費がかさむ
- 9 その他（)

15 今後、ご心配になっていること、考えられる不利益はありますか？

あてはまるものにすべて○を付けて下さい。

- 1 職業（復職や職業の維持）の問題
- 2 家庭生活の問題
- 3 経済的な問題
- 4 趣味や娯楽活動の問題
- 5 心理的な（心の）問題
- 6 その他（)

16 それらの不利益に対して、現在どのような対策をとっていますか？

あてはまるものにすべて○を付けて下さい。

- 1 一般病院での治療や訓練
- 2 精神病院での治療や訓練
- 3 リハビリテーション専門の医療機関での治療と訓練
- 4 職業リハビリテーション機関での相談と訓練
- 5 福祉機関での相談や受給
- 6 その他（)